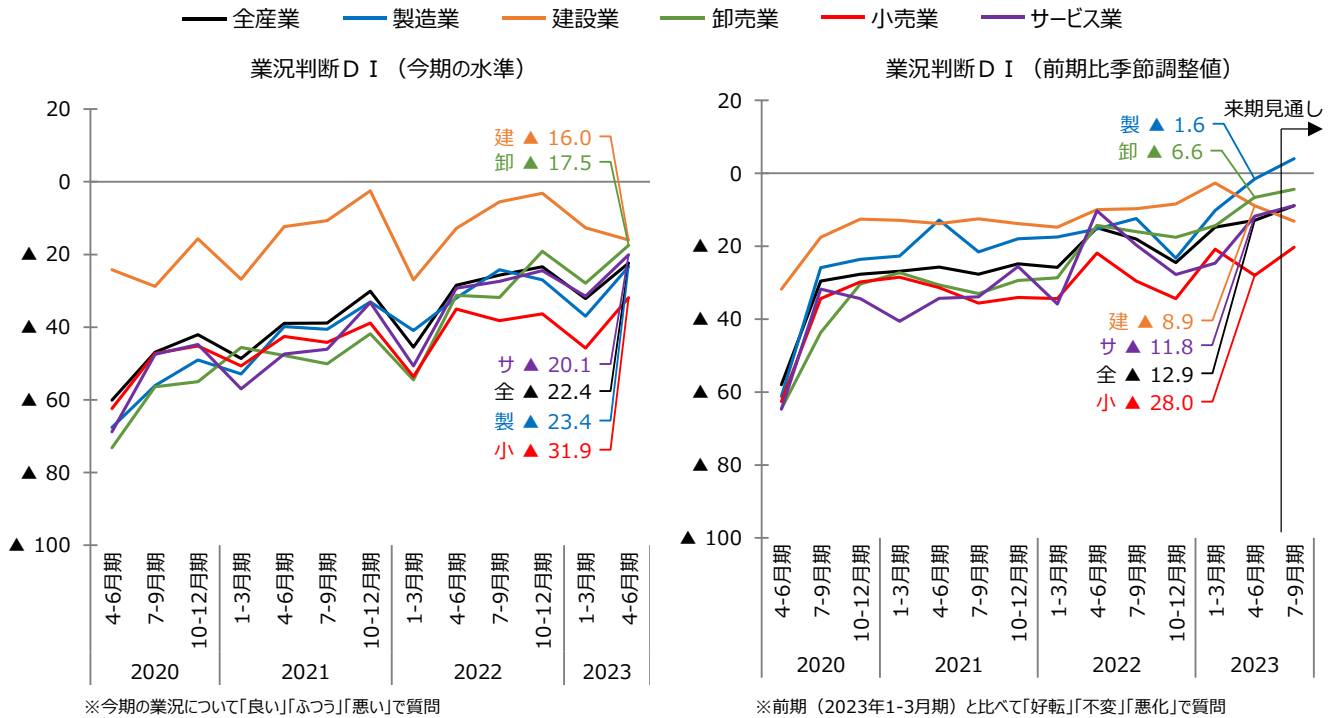


第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 北海道



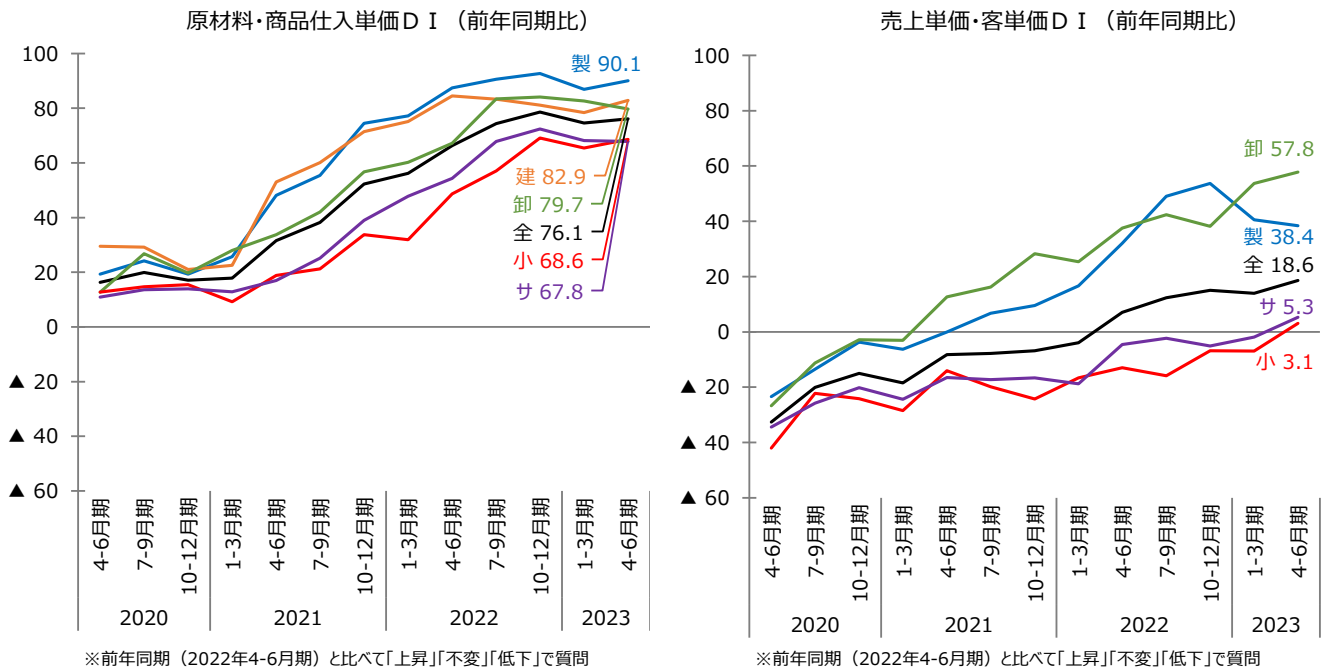
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年1-3月期）より9.8ポイント増の▲22.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、製造業、サービス業、卸売業で上昇し、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.5ポイント増の76.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、小売業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.6ポイント増の18.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、卸売業で上昇し、製造業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,088 有効回答率：96.1% うち、北海道：739企業

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 北海道

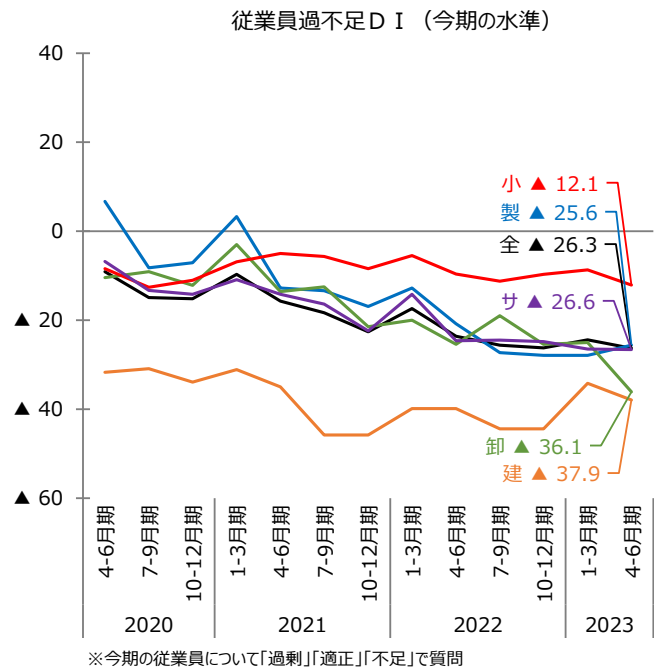
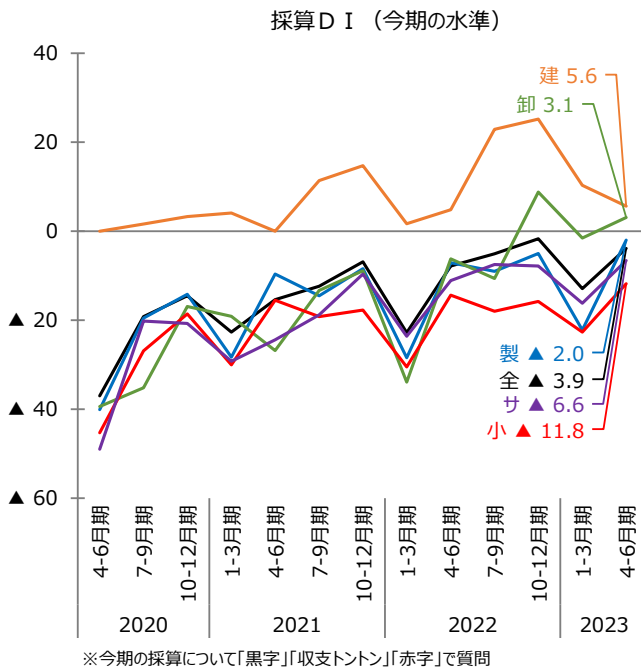


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より9.0ポイント増の▲3.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、小売業、サービス業、卸売業で上昇し、建設業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.9ポイント減の▲26.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、建設業、小売業、サービス業で低下した。



4. 北海道の中小企業の声

| | 業況判断の背景 | 業種 |
|-----|---|---------------------|
| 現状 | 新型コロナウイルスが5類扱いになったことで、少しずつ法事用菓子のオーダーが増えてきた。材料費の高騰が続いているため、値上げした。値上げによる売上額上昇を願う一方、値上げによる客離れを懸念している。 | 製造業 生菓子製造業 |
| | 4月より従業員が減少し、会社の規模を縮小し、存続する道を選んだ。後継者不足、従業員の確保難、官民間わず、仕事の減少等、多くの問題を抱えている。人口減少少子高齢化の中、経営者としての決断が迫られている。 | 建設業 一般管工事業 |
| | 物価上昇に伴い、お客様との信頼関係をいかに確保できるか、浅くても良いが、トータルエンジニア的な立場で、多くの人を取り巻くことができるかが、当然のごとく再認識される。小さい会社でも、何か強いものが必要と感じる。 | 卸売業 その他の各種商品卸売業 |
| | コロナ禍から経済回復し、高水準の利益を出している企業も増加している。しかし、業種によっては、好決算が波及していない。付加価値のより高い商品やサービスを出せるよう、知恵を絞りたい。 | 小売業 他に分類されないその他の小売業 |
| | 観光客数が、コロナ前のレベルに戻りつつあり、利用者数の増加を見込める。しかし、燃料費を代表に、さまざまな項目のコストが上昇している。 | サービス業 他に分類されない娯楽業 |
| 見通し | コロナウイルスが、5類に移行したことにより、イベント、バーベキューに伴う注文が増加。スーパー関係への卸売も好調で、昨年を大きく上回る見通し。注文が増加しているが、従業員が不足しているので、賃上げも検討して求人予定。 | 製造業 水産缶詰・瓶詰製造業 |
| | 民需停滞が大きく、新築・改修共に、一定規模以上の案件が少ないです。材料価格は低下しないので、原価管理も限界です。結果、発注者の費用負担も増加するため、全体の案件数が更に低下するのではないかと考えています。 | 建設業 一般土木建築工事業 |
| | コロナが5類に移行し、人出の増加を感じるものの、それに伴った消費が結びついていない。加えて、卵不足の影響で、特売のチラシが打てず、今以上の集客が難しい。今後も状況に合わせた、継続的な支援に期待したい。 | 小売業 各種食料品小売業 |
| | 仕入価格の上昇と、その他経費が上昇している。価格転嫁が必要な状況であるが、価格転嫁をしていない。社員給与も上げる検討をしている。 | サービス業 自動車一般整備業 |
| | 昨年4月に新卒者が入社したので、一安心しているが、この先定期的な採用に至らなければ、いずれ厳しくなってくると思われる。採用努力を続けていく。 | サービス業 自動車一般整備業 |

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

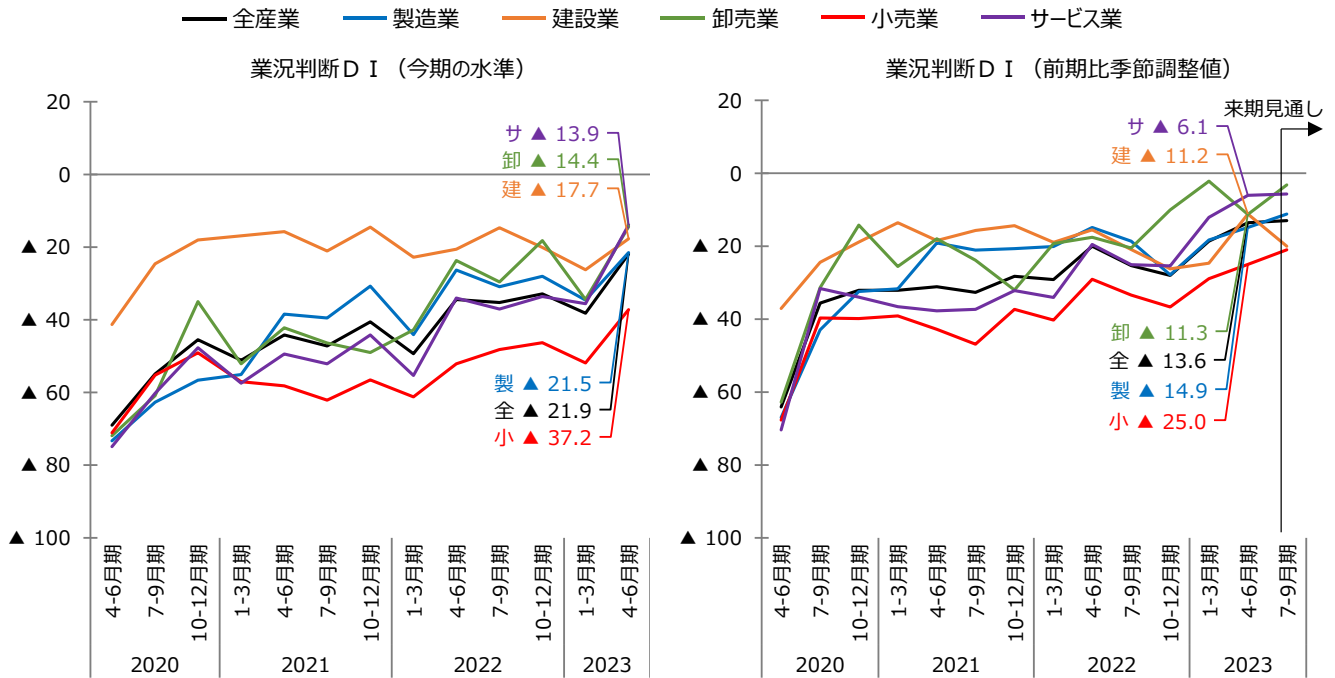
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 東北



1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年1-3月期）より16.3ポイント増の▲21.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

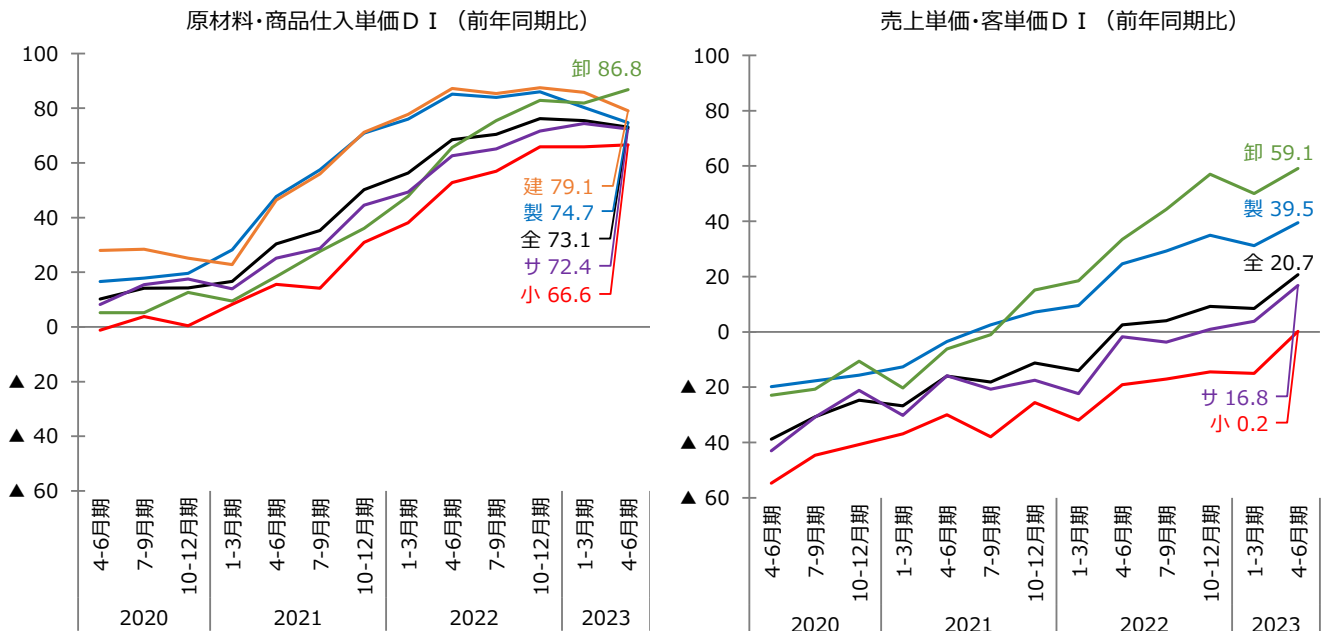


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年1-3月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の73.1と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、建設業、製造業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より12.2ポイント増の20.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,088 有効回答率：96.1% うち、東北：1,869企業

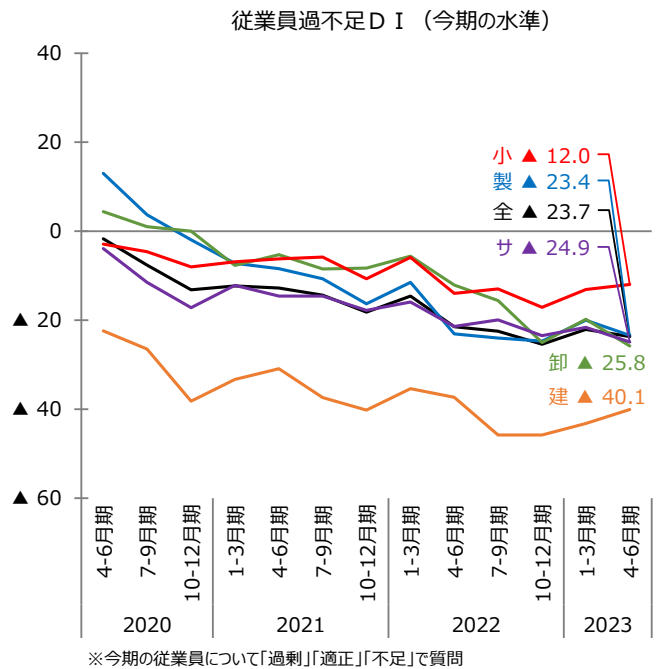
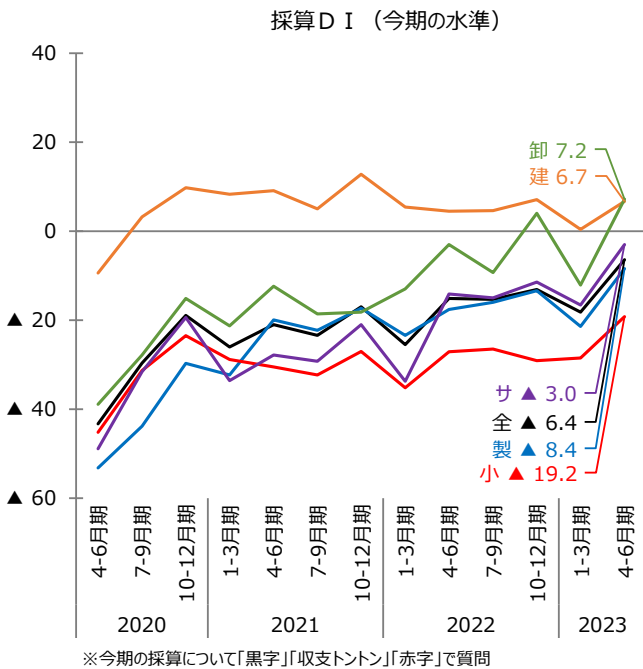
第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 東北

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より11.8ポイント増の▲6.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.6ポイント減の▲23.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、小売業で上昇し、卸売業、製造業、サービス業で低下した。



4. 東北の中小企業の声

| | 業況判断の背景 | 業種 |
|-----|--|----------------------------|
| 現状 | 原材料高騰による値上げに関しては、お客様に調整して頂けるようになりました。エネルギーコストの上昇分の値上げについては、これからの交渉になります。 | 製造業 他に分類されないはん用機械・装置製造業 |
| | 若手人材の確保難、材料価格上昇、同業者間の競争激化で、大変厳しい状況である。 | 建設業 建築工事業(木造建築工事業を除く) |
| | 仕入単価の上昇に対して、販売価格が上昇できていない。需要の停滞もあり、更に競争が激化している。 | 卸売業 その他の建築材料卸売業 |
| | 行動制限の緩和を観光バスの往来で感じるようになった。宿泊施設や飲食店が回り始めることにより、納入側も、また回り始めた感がある。ただし、完全回復とは言えず、仕入単価や経費の上昇が、採算の悪化を招いているのが現状である。 | 小売業 米穀類小売業 |
| | 国内の旅行やインバウンドなど、回復していると感じる。旅行支援等が終わったが、これまで以上の利用のエネルギーを感じている。材料等の仕入単価の上昇や、経費の増加を価格に転嫁できるかが、カギとなると思う。 | サービス業 旅館、ホテル |
| 見通し | 半導体関連が、足踏み状態で、生産に影響が出ている。今年度下期には、ある程度改善されると思われるが、輸出の規制も影響しそうである。前年に続き、今年度も賃上げを実施したが、来年度以降は、伸びが鈍化する見込みである。 | 製造業 アルミニウム・合金プレス製品製造業 |
| | 資材価格の上昇、下請単価の上昇も続く中、人材確保が困難であり、この先の受注は、先行きが不透明である。 | 建設業 木造建築工事業 |
| | 急激な原材料の高騰に伴う、仕入価格の上昇に対し、販売価格の増加については、他社競合の状況もあり、適正利益確保まで引き上げが困難なため、収益の減少が見込まれる。 | 卸売業 他に分類されないその他の卸売業 |
| | 電気料金値上げに伴い、家電製品購入がシビアになった。以前より、インシャルとランニングコストを吟味し、最終的に製品のグレードを下げ、コストを抑える方が増えた。ネット環境も重なり、単価低下が加速しそう。 | 小売業 電気機械器具小売業(中古品を除く) |
| | 仕入や光熱費等の値上がりが続く、補助金が無くなると苦しくなる。節約志向が増えると、観光に向けた金額が減るのではないかと心配している。旅行支援が終わった後、人がどう動くか。よい方向に動いてほしい。 | サービス業 旅館、ホテル |

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

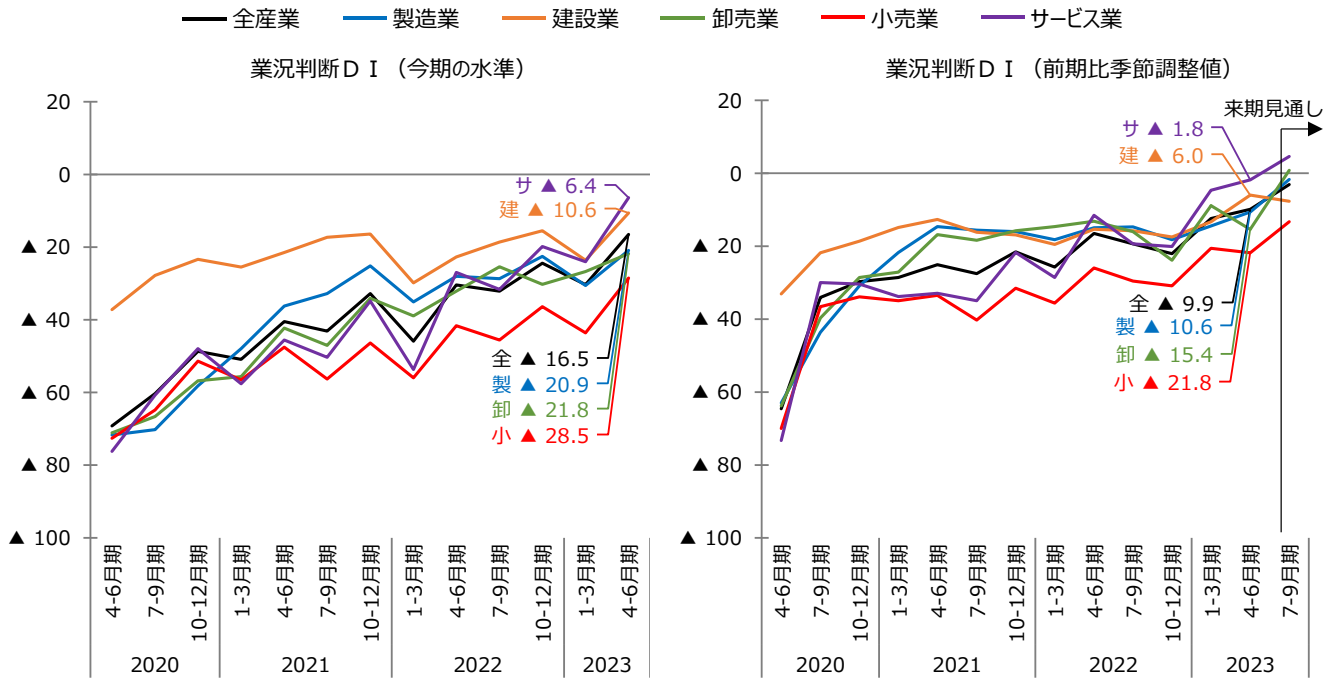
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 関東



1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年1-3月期）より13.8ポイント増の▲16.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

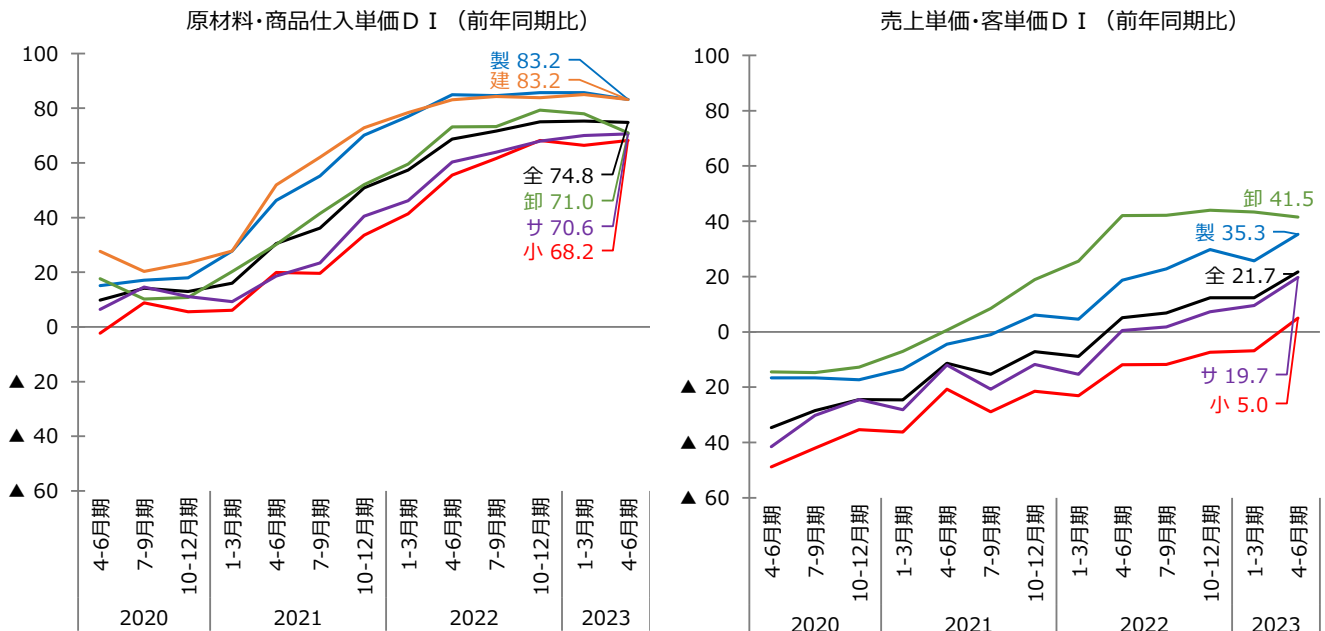


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年1-3月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント減の74.8と10期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、卸売業、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より9.4ポイント増の21.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、製造業で上昇し、卸売業で低下した。



※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,088 有効回答率：96.1% うち、関東：4,915企業

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 関東

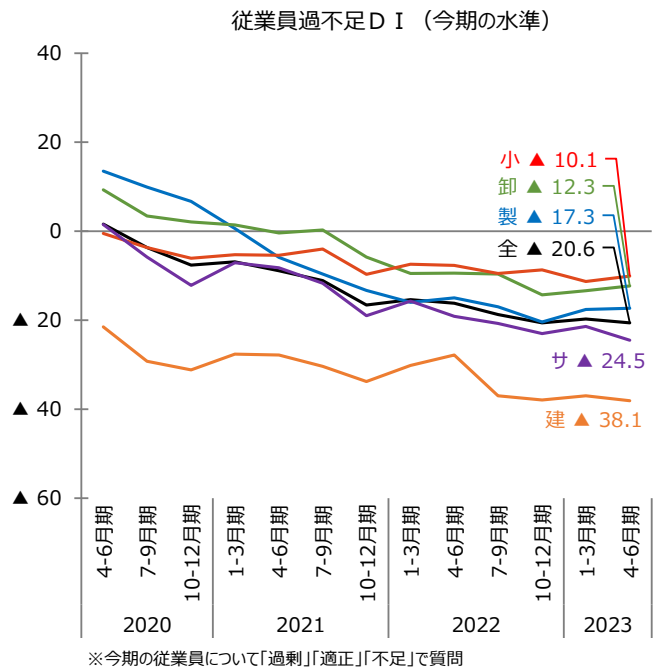
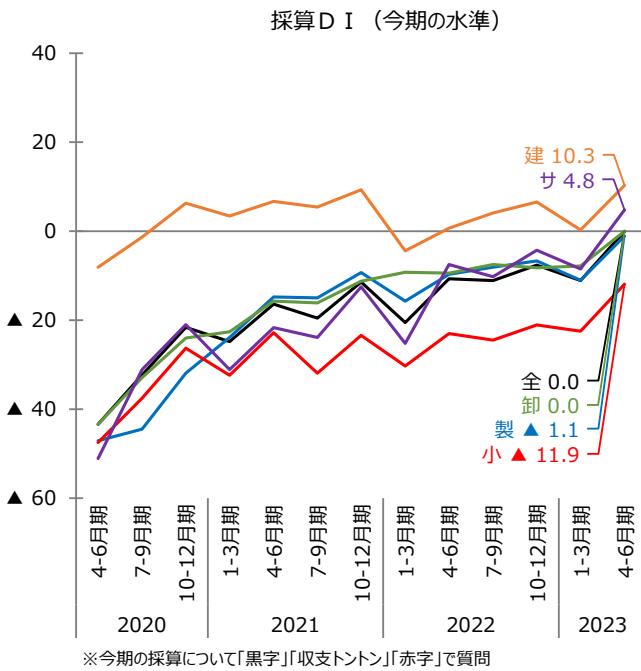


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より11.1ポイント増の0.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.9ポイント減の▲20.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業、卸売業、製造業で上昇し、サービス業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

4. 関東の中小企業の声

| | 業況判断の背景 | 業種 |
|-----|--|---|
| 現状 | 売上水準は、昨年に比べ上がってきたが、電気代を始め、エネルギーコストの上昇、その他あらゆる物の価格が上がり、採算的には変わらない。そんな中、給与の見直しも行い、人件費も上昇しているため、先行きも不安な面がある。 | 製造業 <small>ホルト・ナット・リベット・小ねじ・木ねじ等製造業</small> |
| | 引合いは増加しているが、熟練技術者の高齢化により、スケジュール調整に苦労している。そのため、外注に頼る物件が多くなってきている。(外注費交通費等経費の増加) | 建設業 内装工事業 |
| | 仕入価格上昇は、少し落ちつきがあるものの、昨年度からの価格上昇により、建築単価上昇に伴う設備投資の停滞感がある。半導体不足による影響は、継続している。 | 卸売業 <small>電気機械器具卸売業(家庭用電気機械器具を除く)</small> |
| | コロナの減少により、来店者数、売上が増加しているが、仕入、電気料金、消耗品等、経費も増加しているため、利益率は低下。5月の連休は、コロナ減少で地域内のお客さまも遠方へお出掛けされたのか、来店者は少なかった。 | 小売業 <small>他に分類されない織物・衣服・身の回り品小売業</small> |
| | コロナも5類になり、人の動きも活発になっているため、客足は伸びているが、原材料等仕入値の高騰により、利益はそれほど上がっていないように感じる。また、アルバイトさんの飲食店離れもあり、スタッフ確保が難しく、業務負担が増加している。 | サービス業 すし店 |
| 見通し | コロナの影響がまだ続く中、物価の上昇に伴い、従業員の給料を上げる努力をしております。熟練の技術者の確保も難しく、求人においても、すぐに戦力になるまでは、時間もお金もかかります。人材育成は、今後の課題となります。 | 製造業 木製家具製造業(漆塗りを除く) |
| | コロナ禍もようやく終息の兆しが見えてきたものの、景気はわずかな上昇に留まっていると感じる。今後もまだ、楽観視できない状況が続くことが予想される。 | 建設業 一般電気工事業 |
| | 仕入単価の上昇分を商品単価に転嫁しているため、売上は増加しているが、数量的には減少している。利益改善が若干できているため、採算は改善したが、今後の更なる数量減少があれば、一転して苦しくなることが予想される。 | 卸売業 紙卸売業 |
| | コロナ明けで、客数は増加傾向にあるが、依然として、物価の値上げが続いており、今後もさらに光熱費等の値上げが予定されているため、業況は厳しい見通しである。 | 小売業 パン小売業(製造小売) |
| | 運送業界の2024年問題のクリアが課題。ドライバーの労働環境の改善や、各地への拠点作りもしくは、連携企業作りが大変である。この先大手運送業者でないと、物流の仕事ができなくなる可能性大。 | サービス業 <small>一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)</small> |

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

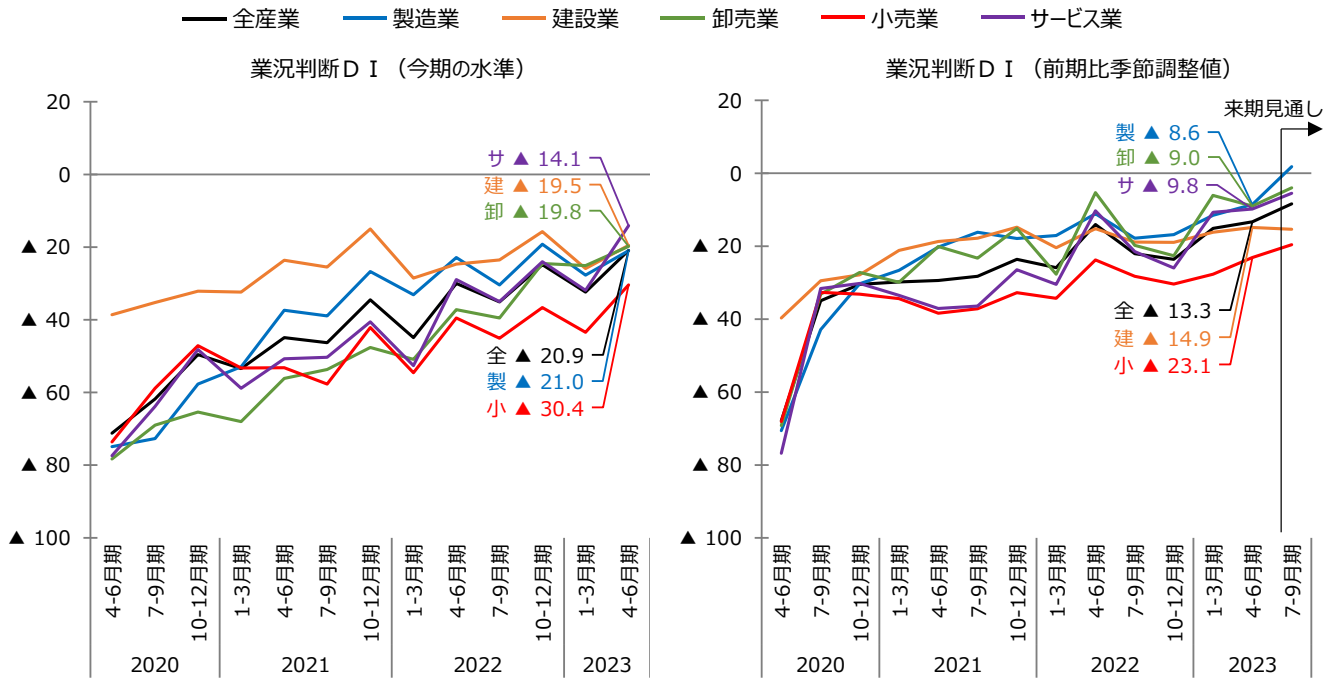
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 中部



1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年1-3月期）より11.5ポイント増の▲20.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

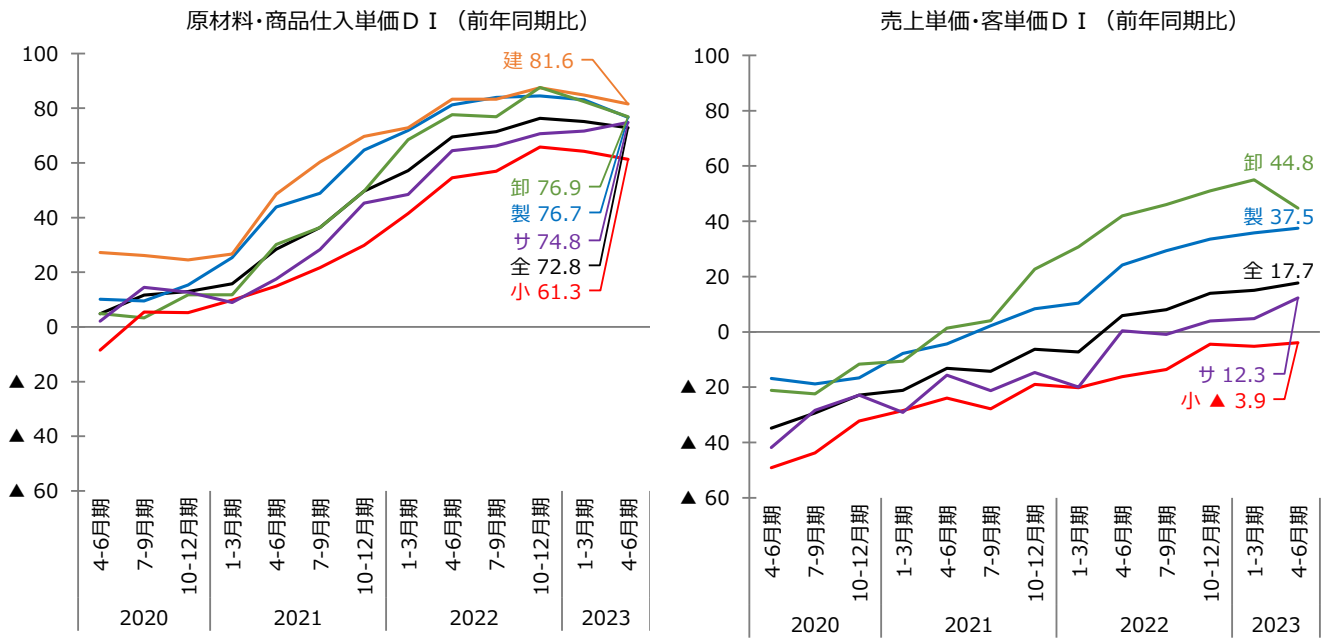


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年1-3月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.3ポイント減の72.8と2期連続して低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、製造業、卸売業、建設業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.7ポイント増の17.7と5期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。



※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,088 有効回答率：96.1% うち、中部：2,316企業

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 中部

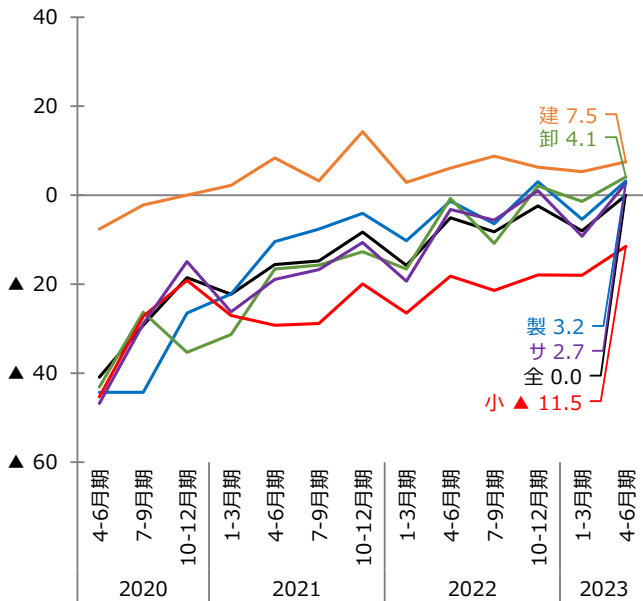
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より8.0ポイント増の0.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

4. 従業員過不足

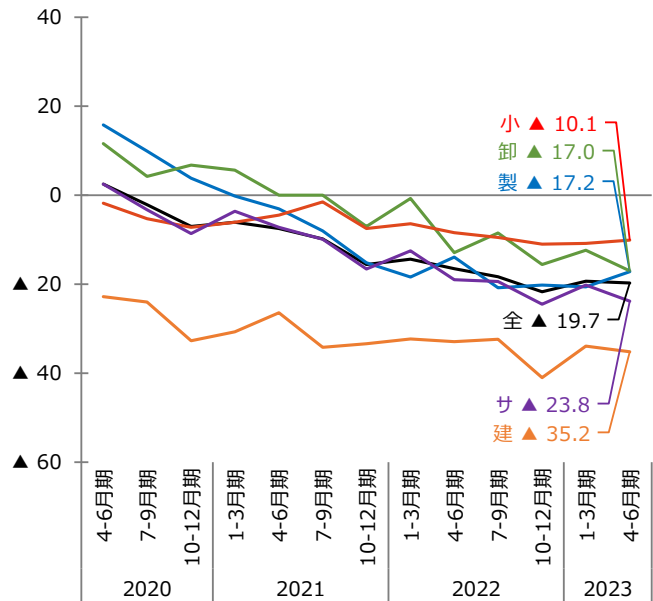
従業員過不足DIは、全産業で前期より0.4ポイント減の▲19.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、小売業で上昇し、卸売業、サービス業、建設業で低下した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

従業員過不足DI（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

4. 中部の中小企業の声

| | 業況判断の背景 | 業種 |
|-----|--|--------------------------|
| 現状 | 自動車関係は徐々に復調、衣料関係は堅調、4月より電気料金に更に値上げされ、加えて、部品他諸経費の値上げにより、収益的には苦戦している。 | 製造業 たて編ニット生地製造業 |
| | 全国的に需要が旺盛であった物流倉庫の工事が一段落したこと、及び原材料費の高騰により、民間需要は落ち着いた状況となっている。ただ、今のところ大きな落ち込みには至っておらず、業況への影響は大きくはない。 | 建設業 板金工事業 |
| | コロナ禍の影響は若干減少したが、一般消費の回復には時間がかかる。円安の影響により、原材料等のコスト上昇が、今後採算性に大きく影響を与えると思われる。大企業に比べ、中小企業の回復が遅い。 | 卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業 |
| | コロナの影響が軽減し、今後のイベント集客が行いやすくなった。また、さまざまな諸経費が、物価高により、上がり続けており、利益を圧迫している。 | 小売業 無店舗小売業（各種商品小売） |
| | 少しずつ、人の動きが出てきたように思います。県外のお客も増えてきました。来店客の増加により、売上も増えているが、仕入・経費の価格高騰により、利益が上昇しないのが現状です。 | サービス業 そば・うどん店 |
| 見通し | コロナ5類移行に伴い、インバウンド効果、需要にも期待したい。また、イベント需要の水準が、コロナ前に戻りつつあるため、売上の回復にも期待したい。しかし、原料の値上がり収まらないため、価格転嫁が難しい。 | 製造業 他に分類されない食料品製造業 |
| | コロナ以降、燃料費の高騰が続き、それに伴い、材料費、光熱費、ガードマン外注費等、人件費が高騰し、それに対応できていない状況です。公共の単価、見積りの単価を大幅に上げていかないと採算が合わない。 | 建設業 一般管工事業 |
| | 国内の需要が増加してきているので、コロナ前の状態に戻れば、好調の輸出とあわせて好転して行くことを期待している。 | 卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業 |
| | 仕入単価の上昇により、利益が圧迫されている。ガソリン補助金が終了する見通しのため、今後経費は厳しくなるものと予想される。 | 小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く） |
| | 新規施設参入による、販売価格の下げ圧力に伴い、コロナ前と比較した収益性は、低下している。併せて、コロナ禍における借入の返済開始等、CFの圧迫が予想される。インバウンドの回復、全国旅行支援等の国内需要の拡大をうまく取り込んだ収益確保が重要となる。 | サービス業 旅館、ホテル |

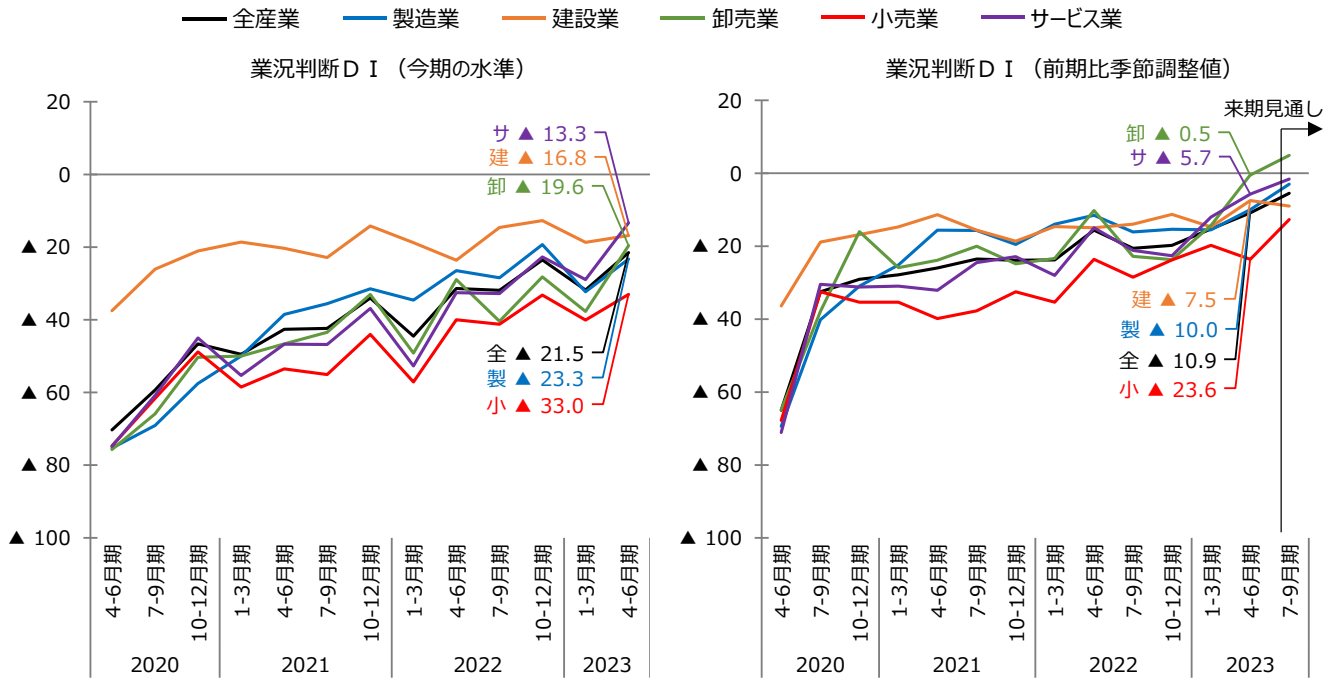
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 近畿

1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年1-3月期）より10.3ポイント増の▲21.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

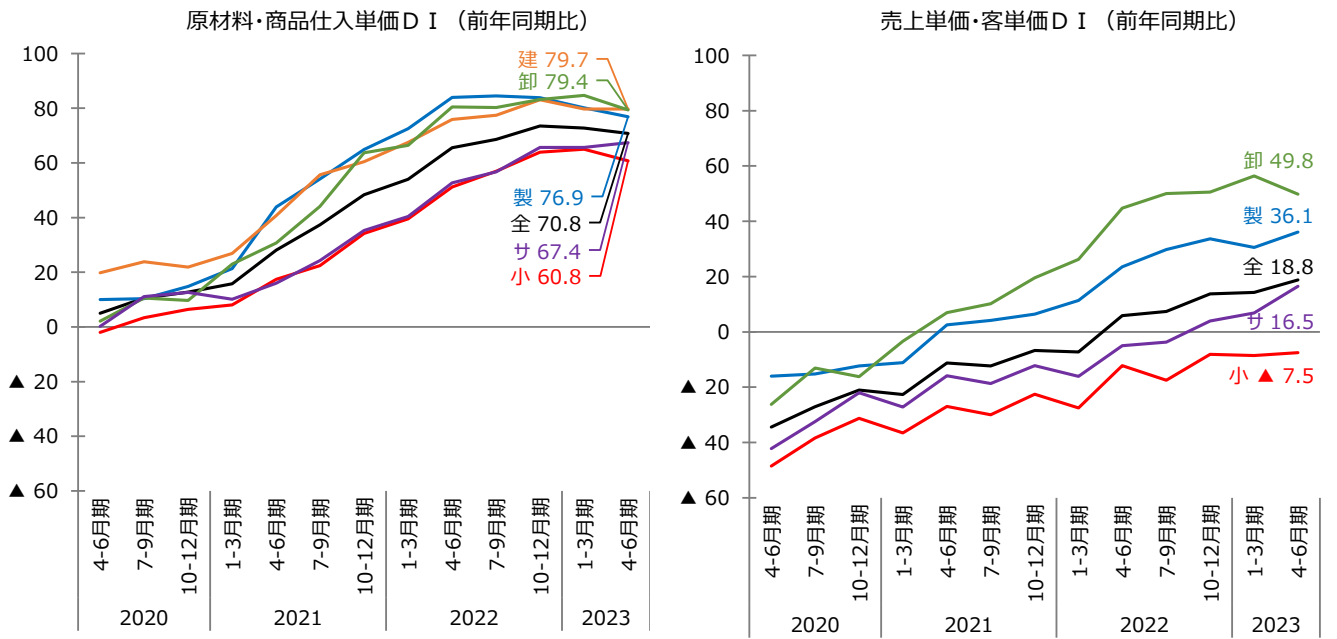


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年1-3月期）と比べて、「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.9ポイント減の70.8と2期連続して低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、建設業で横ばい、卸売業、小売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.5ポイント増の18.8と5期連続して上昇。産業別にみると、サービス業、製造業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。



※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,088 有効回答率：96.1% うち、近畿：2,524企業

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 近畿

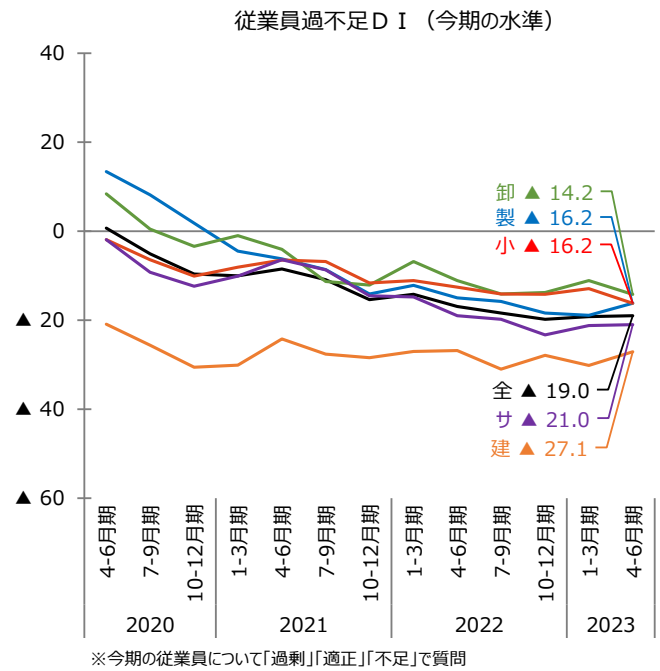
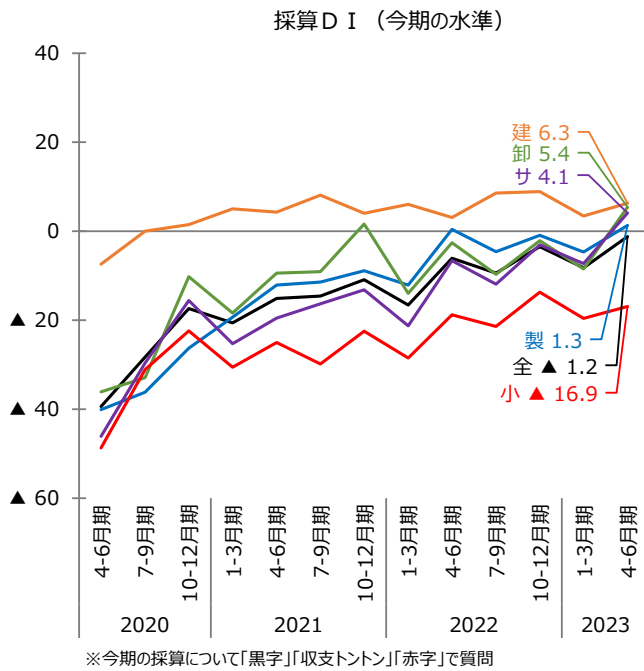


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より7.0ポイント増の▲1.2と2期ぶりに上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の▲19.0と2期連続で上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、サービス業で上昇し、小売業、卸売業で低下した。



4. 近畿の中小企業の声

| | 業況判断の背景 | 業種 |
|-----|---|---------------------|
| 現状 | 受注については好調ですが、熟練の従業員が相次いで退職されて、人材の確保が課題となっています。今後、ますます人材確保が難しくなると思うので、機械化を進めていかなければと思います。 | 製造業 紙器製造業 |
| | このところ徐々にですが、引合いは増えてきました。ただ、大きな仕事はまだです。材料は、一部を除いて入ってくるようになり、現場もスムーズに進行します。材料や下請の価格が上昇しているの、請負は難しくなっています。 | 建設業 木造建築工事業 |
| | 仕入単価上昇に対する価格転嫁も一巡し、為替相場も落ち着いた状況下、業況は堅調に推移しております。新規事業への取組、既存事業における採算面を加味した効率化の取組を行っております。 | 卸売業 その他の各種商品卸売業 |
| | 業況は好転しているが、コロナ前と比べるとまだ悪い。良くなっている部分もあるが、仕入値が上がっているなど、安心できない部分も多い。 | 小売業 豆腐・かまぼこ等加工食品小売業 |
| | コロナも落ち着き、特需事業がなくなり、新規事業にシフトしている途中のため、設備や車両の購入など、資金の投入や新事業の人材育成が急務である。また、柱の事業も人件費高騰により、利益を圧迫している。 | サービス業 浄化槽清掃業 |
| 見通し | 原材料価格上昇のスピードが速く、価格転嫁ができていない状況。今後も原材料が上がることを見越して、大幅な価格改定をしておりますが、大幅に値上げした商品をお客様に購入して頂けるか、心配しております。 | 製造業 肉加工品製造業 |
| | 材料や燃料費の高騰に伴い、施工費の価格も少しずつ上げている。ただ、兼ねてからのパートナーとの取引においては、価格面での取り決めの改定ができておらず、負担が大きくなりつつある。早急な対応が必要と考える。 | 建設業 給排水・衛生設備工事業 |
| | 値上げの影響もあるのか、出荷数量が伸びていない。今後も値上げがあれば、更に数量の落ち込みが懸念される。 | 卸売業 その他の身の回り品卸売業 |
| | 原材料、包装資材、光熱費の上昇は、緩やかになってはいますが、今後まだまだ上昇して行くと考えています。商品価格への転嫁により、お客の購買意欲の低下へと繋がるのではないかと感じております。 | 小売業 菓子小売業(製造小売) |
| | コロナ禍の影響も徐々に薄れ、客足は戻ってきていると感じられる。ただ、社員、パートも、人材確保が困難なこと、また、原材料費の高騰は、収支に直結するため、先行きは明るいと感じられないのが現状である。 | サービス業 他に分類されない宿泊業 |

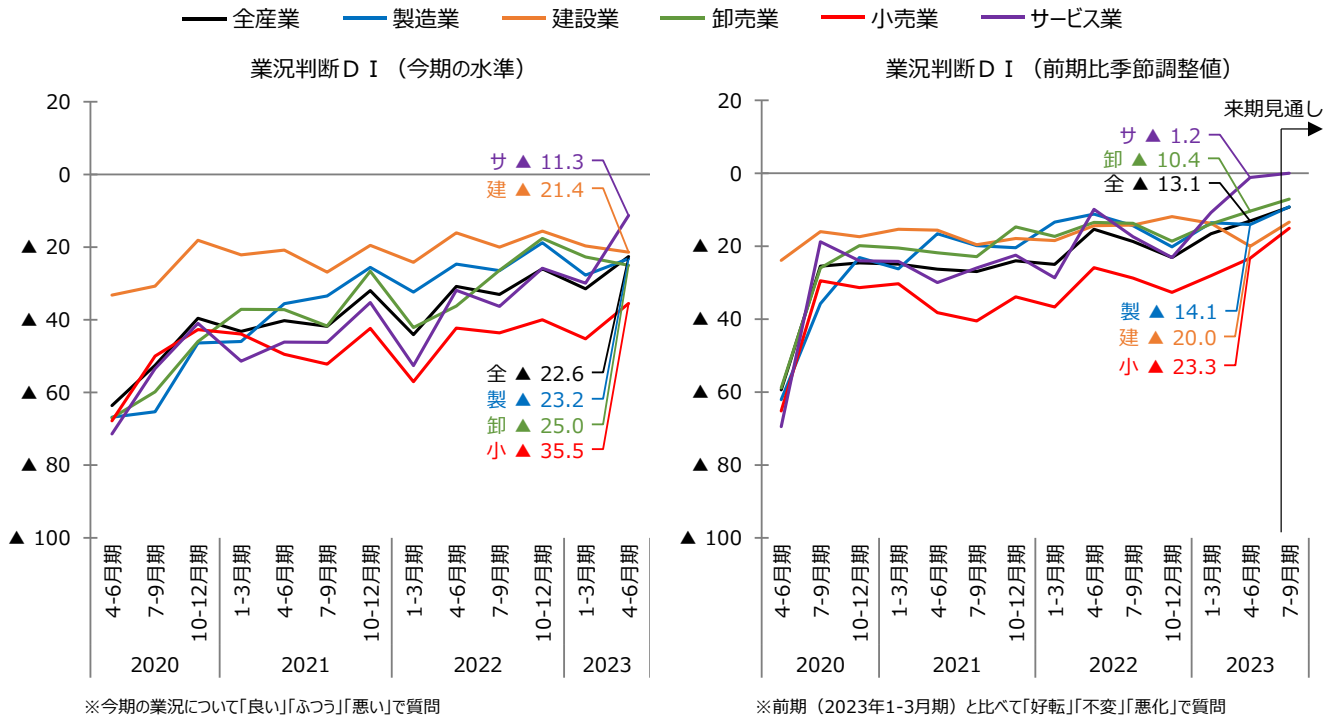
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 中国

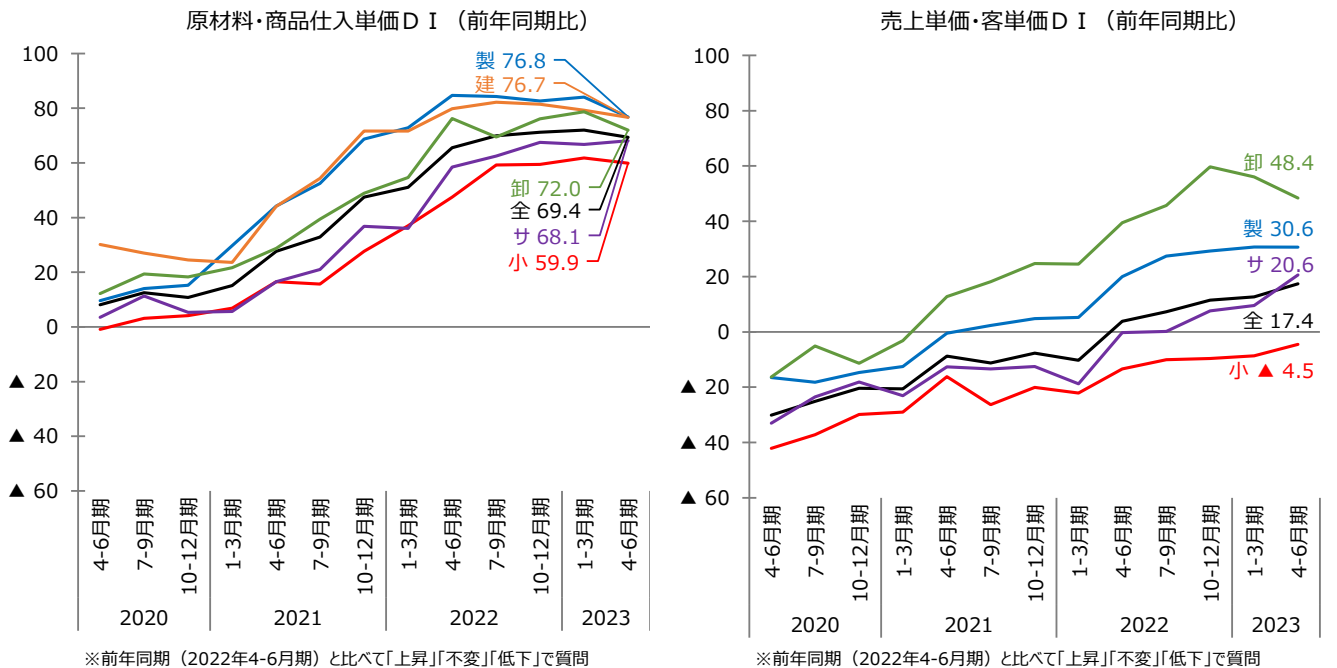
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年1-3月期）より8.9ポイント増の▲22.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、卸売業、建設業で上昇し、卸売業、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.6ポイント減の69.4と10期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、製造業、卸売業、建設業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.7ポイント増の17.4と5期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,088 有効回答率：96.1% うち、中国：1,684企業

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 中国

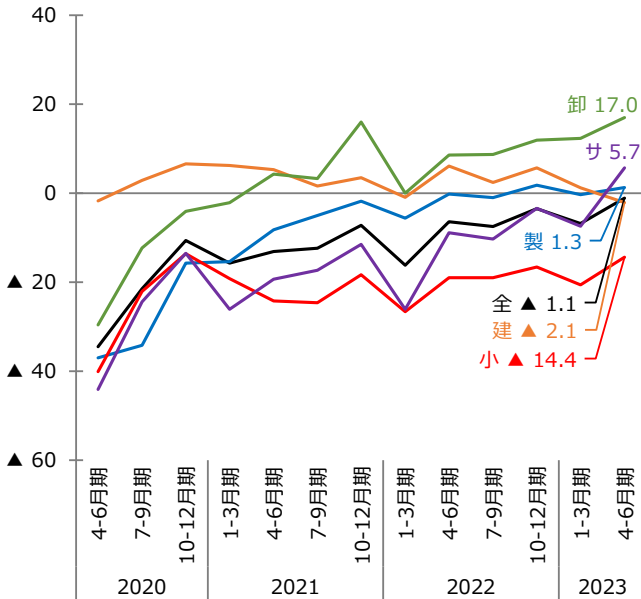
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より5.7ポイント増の▲1.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、卸売業、製造業で上昇し、建設業で低下した。

4. 従業員過不足

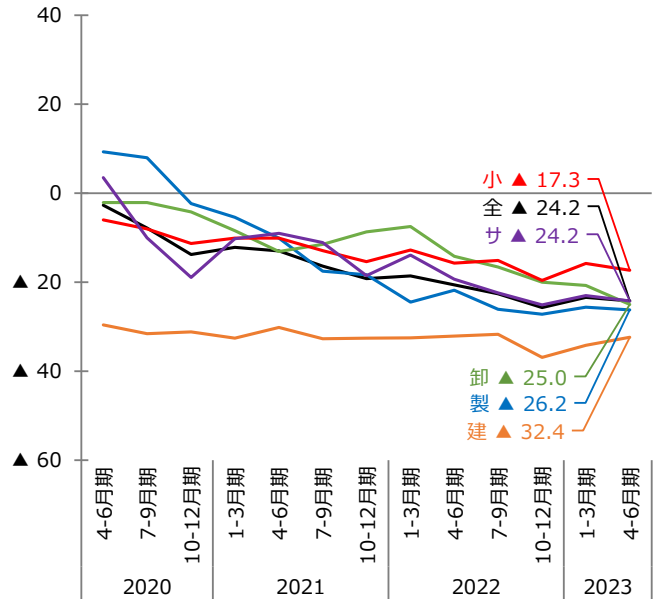
従業員過不足DIは、全産業で前期より0.8ポイント減の▲24.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業、製造業で低下した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

従業員過不足DI（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

4. 中国の中小企業の声

| | 業況判断の背景 | 業種 |
|-----|---|----------------------------|
| 現状 | コロナウイルス問題は終息に向かってはいるが、引合い、受注は、まだまだ以前に比べて回復していない。原材料の高騰や電気代、運賃などで、かなり経費が逼迫しているのが現状。 | 製造業 他に分類されないプラスチック製品加工業 |
| | コロナの影響は無くなりつつあるが、業界全体の人手不足、高齢化等、コロナ前からの課題は変わらず。 | 建設業 一般土木建築工事業 |
| | 今期に入って、売上及び収益共に、前期比より増加しており、順調に推移しているが、まだコロナ禍終息までに至らず、先行きは不透明で、楽観できる状態ではない。 | 卸売業 金属加工機械卸売業 |
| | コロナ禍から経済活動も復活し、状況も確実に好転していますが、光熱費の増加、仕入単価の上昇が、経営に与える影響を懸念しています。 | 小売業 酒小売業 |
| | 船員不足が年々悪化してきており、同業者と取り合いになることで、人件費が上がってきている。今後もこの状況は、悪化の一途を辿ると思われる。資材の高騰も加わって、年々経営状況は良くなっていくと思われる。 | サービス業 沿海貨物海運業 |
| 見通し | コロナウイルスの終息により、海外からのインバウンド需要が期待できるため、ホテル・飲食関連の需要は、一定数期待できるものの、全体的な景気低迷や原材料の高騰による買い控えにより、業況判断は厳しいものがある。 | 製造業 木製家具製造業（漆塗りを除く） |
| | 燃料や光熱費高騰による、利益圧迫やリフォーム・増改築の受注減、停滞により、業況としては、悪化傾向にある。しかしながら、先の受注の話、動きも増えつつあり、多少の改善、増加傾向を期待している。 | 建設業 木造建築工事業 |
| | 今後しばらくは、物価上昇は続くものと考えられるが、落ち着いた後、競争が激化する懸念がある。 | 卸売業 事務用機械器具卸売業 |
| | 原材料費高騰の影響により、仕入価格が上昇。やむなく販売価格に転嫁したことにより、売上金額は増加した。仕入価格の値上がりを今後も懸念している。 | 小売業 菓子小売業（製造小売） |
| | 今期、コロナ禍による制限が終わり、利用客は増加していますが、来期に向けて、材料光熱費等の見直しや利用者ニーズの変化への対応を考えることが必要だと感じている。 | サービス業 酒場、ピヤホール |

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

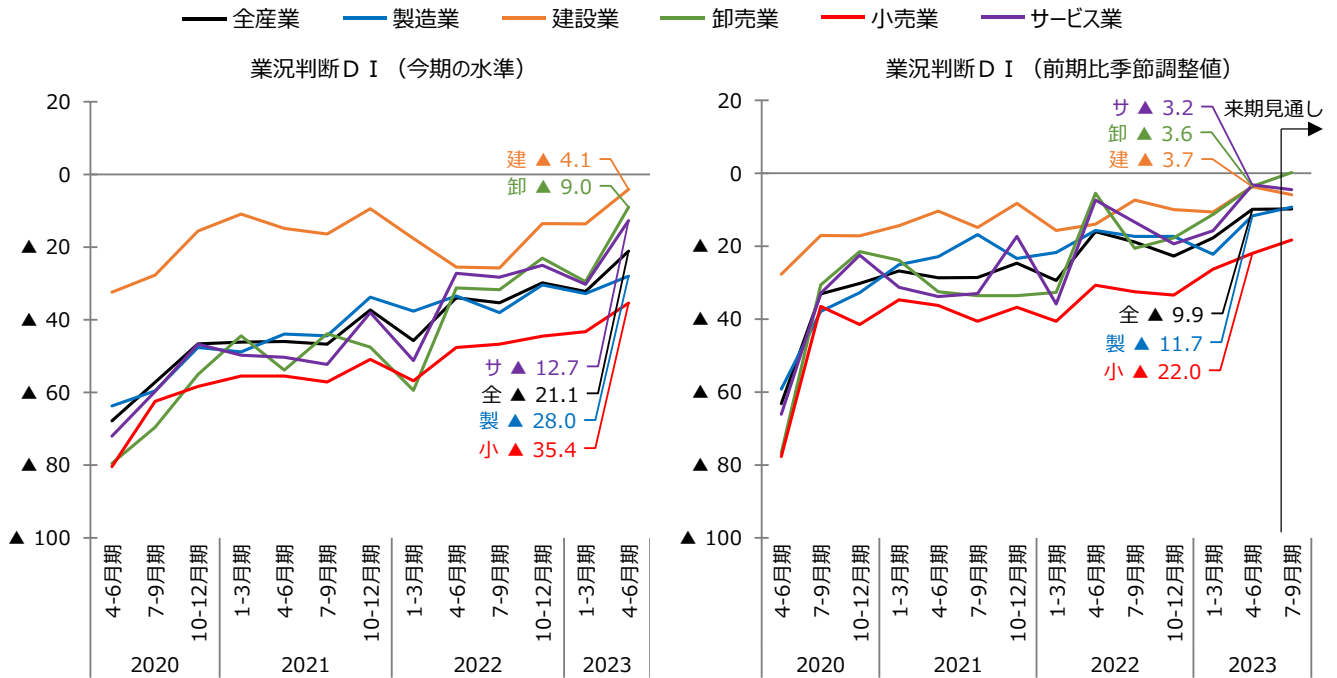
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 四国



1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年1-3月期）より11.1ポイント増の▲21.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

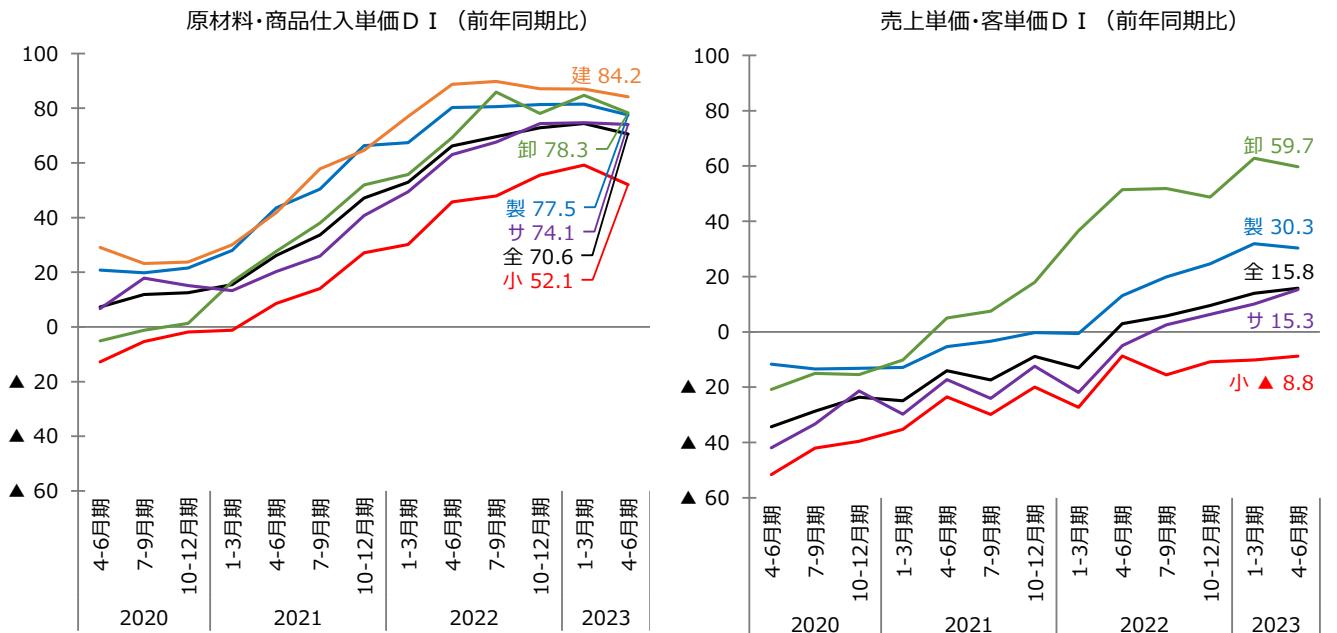


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年1-3月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.8ポイント減の70.6と12期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.8ポイント増の15.8と5期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。



※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,088 有効回答率：96.1% うち、四国：1,279企業

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 四国

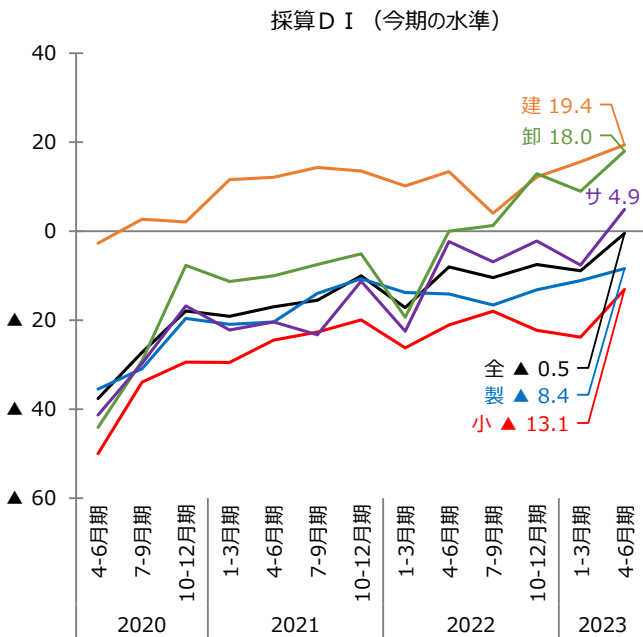


3. 採算

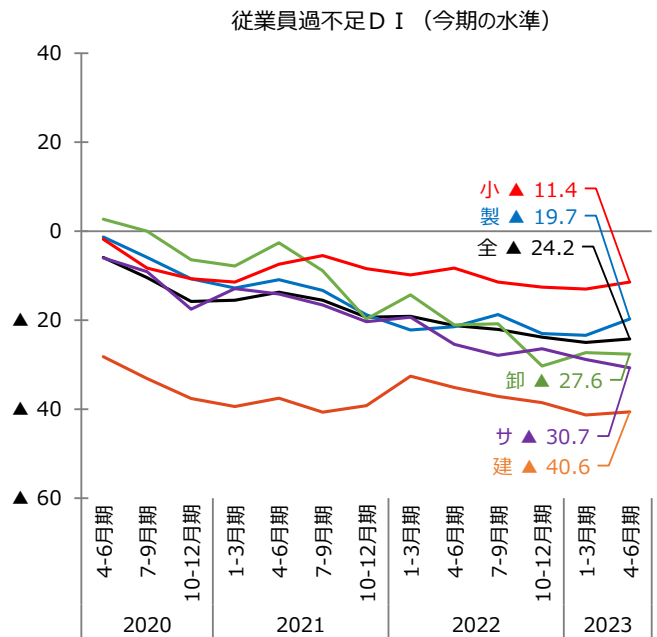
採算DIは、全産業で前期より8.4ポイント増の▲0.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.8ポイント増の▲24.2と5期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、小売業、建設業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

4. 四国の中小企業の声

| | 業況判断の背景 | 業種 |
|-------------|--|---|
| 現状 | コロナ不況により、従業員を縮小していたため、景気回復とともに、すぐには生産能力を向上させることができないので、生産量は上がらない。 | 製造業 陶磁器製置物 製造業 |
| | 従業員の確保が、難しくなっている。特に、製図等の技術者の不足により、工事及び製作をスムーズに消化できなくなっている状態にある。技術者の獲得に、注力をしなければならない。 | 建設業 鉄骨工事業 |
| | 売上は、回復するような状況になってきたが、何よりも、それ以上に、コストアップが最重要課題になってきた。当然、販売価格の見直しが必要だが、客離れが避けられないレベルの値上げ幅になってきている。 | 卸売業 その他の食料・ 飲料卸売業 |
| | 仕入単価の上昇が続き、商品に価格転嫁せざるを得ない状況。購買意欲の低下につながっていると感じる。 | 小売業 その他の各種商品小 売業（従業員が常時 50人未満のもの） |
| | 4月より、社会全体の物価上昇に合わせて、10%以上の値上げをしました。料金改正を、慎重に考えていましたが、社会が受け入れる雰囲気もあったので、従業員の処遇改善のためにも収益のためにも値上げは、良かったと思う。 | サービス業 理容業 |
| 見 通 し | 物流業界の2024年問題により、関東地域への配送が、中1日では届かなくなることを受け、弊社の物流拠点の移設、或いは企業をM & Aにて取得する方向性を、模索して行かなくてはならなくなった。 | 製造業 織物製シャツ製造業 (不織布製及びレース製 を含み、下着を除く) |
| | 店舗やテナント等の需要は、活発に動いているように見えるが、一戸建住宅の引合い件数が、今年の春以降、停滞している。夏以降はもっと厳しくなると思われる。 | 建設業 一般土木建築 工事業 |
| | 建築資材の値上げ、電気代、人件費等の経費増加、受注競争の激化により、今後の収益確保が課題である。 | 卸売業 その他の建築 材料卸売業 |
| | コロナ緩和後、来客数は増え、売上高は増加傾向だが、物価高騰による仕入や電気代等の高騰により、コロナ時の損失を回収するには、まだ時間がかかる。今後は、店舗駐車場を増築することで、来客数の増加に期待したい。 | 小売業 各種食品小 売業 |
| | 利用客数、売上は戻りつつあるが、材料費等の上昇が続いているため、厳しい状況に変わりはない。来期からは、光熱費等の値上げも決まっているので、さらに厳しくなってくると思われる。 | サービス業 食堂、レストラ ン（専門料理 店を除く） |

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

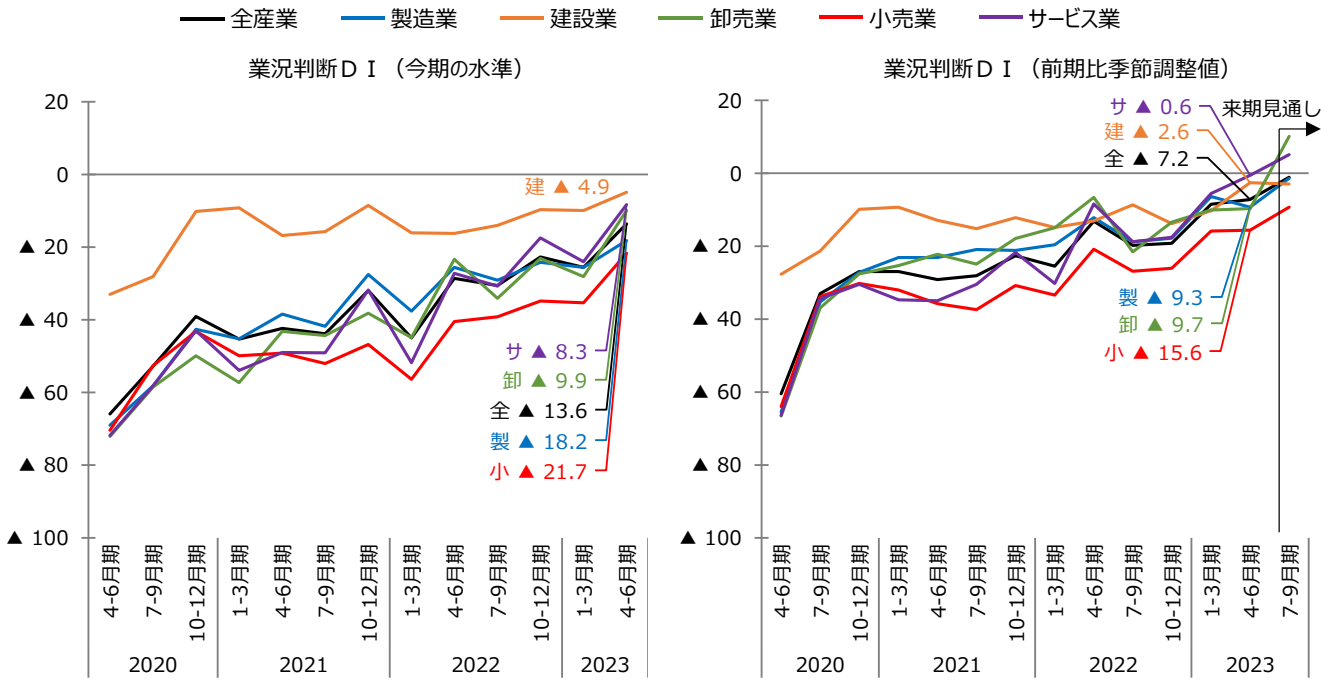
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 九州・沖縄



1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年1-3月期）より12.0ポイント増の▲13.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

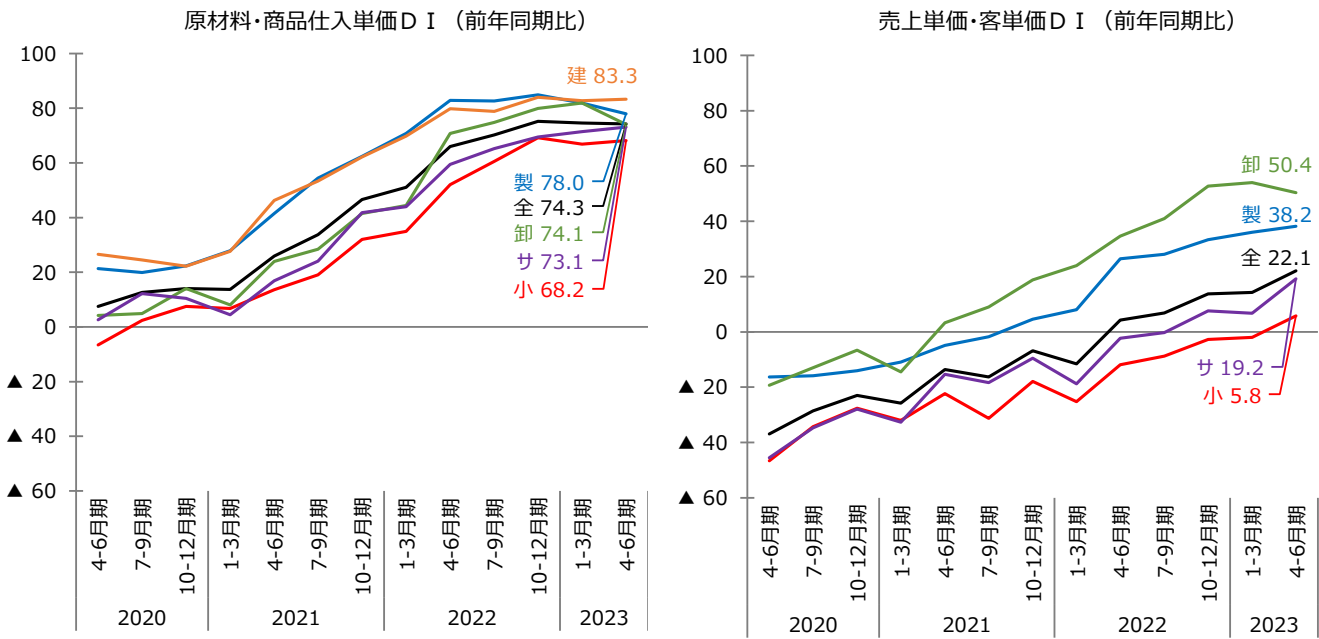


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年1-3月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.3ポイント減の74.3と2期連続して低下した。産業別にみると、サービス業、小売業、建設業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より7.8ポイント増の22.1と5期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、製造業で上昇し、卸売業で低下した。



※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年4-6月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,088 有効回答率：96.1% うち、九州・沖縄：2,762企業

第172回 中小企業景況調査（2023年4-6月期） 九州・沖縄

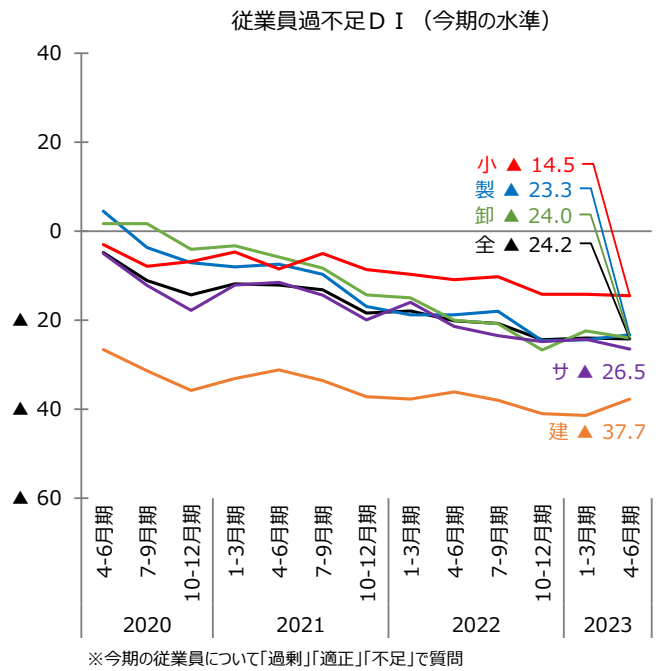
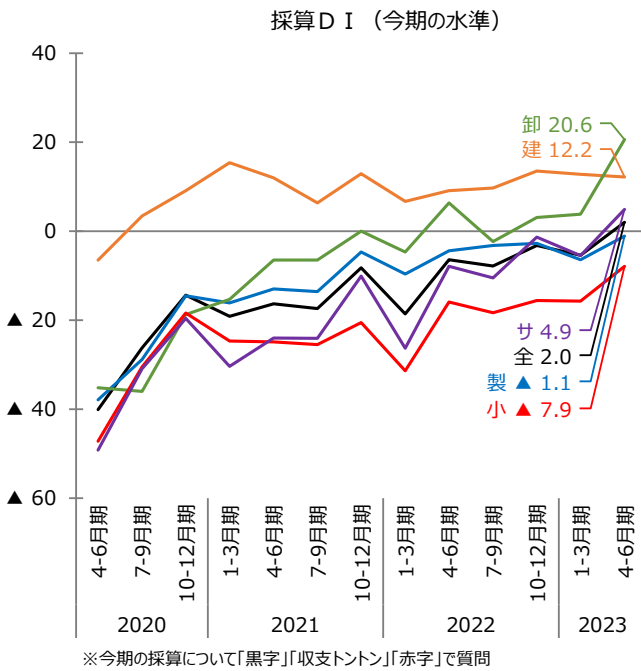


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より7.4ポイント増の2.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業、製造業で上昇し、建設業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の▲24.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、製造業で上昇し、サービス業、卸売業、小売業で低下した。



4. 九州・沖縄の中小企業の声

| | 業況判断の背景 | 業種 |
|-----|--|-----------------------|
| 現状 | 原材料値上げの影響は、依然続いている。価格転嫁がなかなか進まない中、従業員の給与の見直しも迫られている。 | 製造業 印刷関連サービス業 |
| | コロナ等の影響で、業績が悪化していたが、コロナウイルス感染症が落ち着き始めたのをきっかけに、現場が活発に動き始めた。今後は人手不足、従業員の高齢化、材料仕入単価・人件費の上昇などの課題が残る。 | 建設業 造園工事業 |
| | 需要の回復に伴い、供給力不足が顕著になってきた。コロナ3年間で落ち込んだ生地製造絵付などの技術者不足で生産が思うようにできていない。 | 卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業 |
| | 3年間に及んだコロナ禍も、やっとこの春先ぐらいいから平常に戻りつつある。それに伴い、売上も上昇機運ではあるが、原材料高による仕入価格上昇分を、販売価格に転換するのがなかなか進まない。 | 小売業 各種食料品小売業 |
| | 今期の業況の良さの背景には、全国旅行支援が大きく影響している。この支援がそろそろ終わりに差しかかり、今後の観光客の動向を注視せざるを得ない。 | サービス業 旅館、ホテル |
| 見通し | 原材料の極端な値上げに対する価格転嫁が困難な状況。需要の停滞も重なっており、従業員への賃金の対応も後手となっている。今後、老朽化した機械設備への投資も必要となり、資金確保も計画立案が難しい状況にある。 | 製造業 オフセット印刷業(紙に対するもの) |
| | 来期の不安要素として、原材料価格や燃料価格の高騰、人材不足などが挙げられます。 | 建設業 土木工事業(別掲を除く) |
| | 国土交通省、経済産業省、環境省が連携した、住宅省エネ化のための補助金事業が追い風となり、窓の断熱改修需要が本格化して、業況が好転しており、今年一杯は継続する見込みである。 | 卸売業 板ガラス卸売業 |
| | 売上額は商品値上がりにより、昨年と横ばいだが、その分仕入値も大幅に上昇し、経費もかかり、コロナ緩和で流動性が出て期待していたが、まだまだである。この先光熱費など、値上げ計画もありそうで、状況は不安定。 | 小売業 ガソリンスタンド |
| | 6月迄の旅行支援の駆け込み需要、制限無しGWなどで、客足はコロナ前水準まで回復、仕入、外注費の高騰が著しく、今後心配。また、人手不足感は否めず、全体のサービス低下に繋がるのではないかと懸念している。 | サービス業 旅館、ホテル |

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。